

2022年度 学校関係者評価

学校法人松本学園・幼保連携型認定こども園さふらん

創立51年目、幼保連携型認定こども園として8年目の歩み

I. 理念・方針・目標

理念

“さばくは喜びて花咲き、さふらんのように、さかんに花咲き、かつ喜び、かつ歌う”(旧聖書)の言葉のように、幼稚園も社会も、愛と平和と希望の、美しい花園になるように、と願う

方針

キリスト教精神に基づき、より良い環境と自由な雰囲気の中で、子どもたちの個性と可能性を伸ばし自主性(意欲)と協調性(思いやり)、創造性が育つよう支えていく

互いの違いを認め合い、(ハンディのあるなしに関わらず)共に育ちあう事を大切にする

目標

「いつも元気で、みんな仲良く」育ってほしいという願いをもって日々の保育に取り組む
(自立・自尊・自信→いつも元気で 協調・協力・調和→みんな仲良く)

学年の重点

1歳児	園で安心して過ごし、人に対する信頼関係を築く	} 見ていて下さる神様
2歳児	自分で様々な事をやろうとする(依存から自立へ)	
満3歳児	幼稚園で安心して過ごす	
年少組	1人1人が自分の遊びを充分楽しむ	守って下さる神様
年中組	友だちと関わりながら遊びを楽しむ	愛して下さる神様
年長組	友だち同士認め合い自分らしさを発揮する	共にいて下さる神様

II. 本年度の重点目標

- ①教職員間の意見交換により、保育の質を高める研修を行う
- ②コロナ禍の保育は続くが、子ども達の成長にとって大事にするべきねらいを考え、日々の保育や行事を見直し、経験を増やしていく。

Ⅲ. 評価項目の達成と取組状況

評価の基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた

C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

評価項目	評価内容	取組み状況	自己評価
保育計画	発達段階に則した適切な幼児理解と環境整備が出来ているか	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導案などの保育カリキュラムは毎年、年度初めに見直し、保育環境や子どもの成長段階に応じて、作成しなおしている。 月案や週案は、各学年の担任やフリー教諭が話し合い、子どもの成長につながるよう計画・作成している。 子ども達が興味あることや好きなことを楽しめるように、子どもの様子に合わせて、コーナーや遊びの環境を設定したことで、子ども達が生き生きと楽しめる活動が展開された。 	A
	子どもが主体的に参加し、成長につながる行事の取組みが出来ているか	<ul style="list-style-type: none"> コロナの状況も落ち着いていたので、2年ぶりに年少、年中組の親子遠足ができ、良い交流の時となった。 運動会は、午前中の開催ではあったが、年長組のみ親子競技をプログラムに入れた。親子で楽しむ様子が見られた。 プレイデーは、子ども達がイメージを膨らませやすいテーマで、思いを形にすることができたので、ひとりひとりが意欲的に取り組むことができた。 運動会やクリスマス、お店屋さんごっこを通して、年下の子ども達が年長組に憧れの気持ちを持ち、次は自分達もやってみたいという意欲につながっている。 芋掘りでは、畑に行き、土に触れる楽しさ、収穫の喜びを感じることができた。 	A
	園と小学校の円滑な連携の取組みが出来ているか	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、本町田小学校や本町田東小学校と園だよりや学校だよりのやりとりをしている。 2月に年長組が、本町田小学校を訪問し、校舎内や1年生の教室を見学させてもらった。 市主催の幼小連携連絡会に出席し、近隣の小学校や保育施設と幼小連携について情報、意見交換している。 アプローチカリキュラムを作成し、年長児が進学する各小学校に送付している。小学校からもスタートカリキュラムが送られてきている。 	B
特別支援	特別支援教育についての取組みは適切であったか	<ul style="list-style-type: none"> ひとりひとりに適切なフォローができるように、教職員間で情報を共有し、個別対応ができるような体制を作っている。 療育機関より訪問指導を数回、行ってもらい、それぞれの情報を共有するなど連携している。 2月、佐藤剛彦先生に来ていただき、子どもの様子を見てもらった上で、研修を行った。 さふらん会で、2回ほど卒業生の保護者に来てもらい、小学校の話を聞くことができた。 	A
情報提供	地域、関係機関への情報発信が出来ているか	<ul style="list-style-type: none"> 未就園児クラスの開催、体験保育を行う。 地域の未就園親子を対象にイベント(リトミック・親子ヨガ・リースづくり)を企画し、HPや町田市の子育てカレンダーに載せたり、地域の施設に掲示してもらおう。 	A
	ドキュメンテーションの取組みは充実しているか	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ内のブログをほぼ毎日更新し、動画も交えながら、保護者に園生活の様子を伝えている。 各学年、定期的に写真入りのお便りを発行し、様子を伝えている。 	B
	保護者との連携は適切であったか	<ul style="list-style-type: none"> 父母委員会の定例会に、担当職員が出席し、園の様子を話したり、父母会運営に関して意見交換を行っている。 誕生会でのコンサートや劇の公演、絵本の読み聞かせなどのサークル活動を通して、保護者が子ども達と関わる機会をもっている。 外国人の保護者に対しては、連絡アプリの翻訳機能を使用してお便りの内容を理解してもらい、コミュニケーションや難しい説明などは翻訳アプリを使用している。 	A

保健衛生安全管理	危機管理体制の整備は充分か	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な、園内の設備や遊具の安全点検を行い、必要に応じて修理を行っている。 子どもが怪我をした事故をうけて、ボルダリング付近のアスレチックの下にゴムチップを敷く工事を行い、保育室の入口にはゴムの緩衝材をつけた。 他園のバスの置き去り死亡事故や虐待報道をもとに、再度マニュアルや注意事項の確認および見直しを職員全員で行った。 地震や火事を想定した避難訓練を毎月、不審者対応訓練を年2回、行っている。 	A
	新型コロナウイルスについての対応は適切であったか	<ul style="list-style-type: none"> コロナの感染予防と子ども達の成長にとって何を大事にすべきかを考え、日々の保育や行事を進めている。 保護者の行事参加を徐々にコロナ前の状況に戻す努力をしており、プレイデーでは小学校3年生までの兄妹、クリスマス・卒業式では年長組の保護者2名の参加まで広げることができた。 園内での感染者が増えた時は、保護者に感染状況を伝えた。体調が悪い時は登園を控えていただいたので、長引くことはなかった。 3学期に入り、感染者が増えたので、さくらんぼ組以外の各学年の参観を中止した。 	A
	保健衛生に係わる情報を適切に保護者・職員に提供できていたか	<ul style="list-style-type: none"> 登園許可のいる疾病やコロナの感染状況は、事務室のホワイトボードに記入し、全職員で共有している。 感染症が流行った時や検診の後などに、保健だよりを発行し、保護者に情報提供している。 	A
研修	教職員間の共通理解が出来ていたか	<ul style="list-style-type: none"> 会議で決まった事項などは、議事録として、全教職員にメール配信し、伝達している。 支援が必要な子ども達の状況や対応など、学期に1回ケース会議を行うだけでなく、必要があれば職員会議で話し、共通理解をしている。 	B
	教職員の資質向上の為に研究・研修が充実していたか	<ul style="list-style-type: none"> 各学期末の土曜日を全職員出勤日とし、共通のテーマの元、研修を行っている。 1学期は、数名の教師がりんごの木の保育を見学したことをもとに、さふらんの保育と照らし合わせ、今後の保育を考える機会となった。 2学期は、「子ども主体の保育」について、意見交換を行い、さふらんとしての保育の主体性について共通理解できた。 外部の研修、キャリアアップの研修に個々で参加している。研修後には、報告書を作成している。 	A
キリスト教保育	子どもにキリスト教精神を伝える取り組みができていたか	<ul style="list-style-type: none"> 初めてキリスト教に触れる子どもが多いので、入園当初はクラスでお祈り・聖句の紹介や、絵本を使い、身近な事柄から神さまについて知る時間を作っている。 週に1度、学年毎に礼拝を行い、聖書の中から、子ども達が理解しやすい話を選び、話している。月に1度は、年中・年長組を中心に、鶴川教会の瀬戸牧師に話をしてもらうことで、キリスト教について知る機会になっている。 キリスト教ならではの行事(感謝礼拝やクリスマス)を通して感謝する気持ちや思いやりの気持ちを育てている。 年長組は3学期に、鶴川教会へ行き、教会の厳かな雰囲気の中で礼拝を行っている。 瀬戸牧師を園に招いて、年2回、研修を行い、教職員もキリスト教への理解を深めている。 キリスト教保育連盟に加盟しており、連盟主催の研修にも参加し、キリスト教について学んでいる。 	A

乳児保育	環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られたか	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳児12名。月齢やひとりひとりの成長段階を把握し、保育内容や環境作りができていたので、無理なく、園生活を楽しむことができていた。また、子どもの人数や様子に応じて、フリーやパート保育士が入り、子どもの気持ちに寄り添いながら丁寧に関わることで、安心して過ごし、信頼関係を築くことができた。 ・2歳児は、4名の新入児が加わって16名となる。7月頃から徐々に同年代のさくらんぼ組の子ども達と交流の機会を増やしている。3学期に入ると、お昼寝の時間を遅くするなど、幼稚園の生活リズムに合わせた生活にすることで、スムーズに移行できるよう、配慮している。 ・日々、遊具や室内設備の点検・消毒をこまめに行っている。 	A
預かり保育	ひだまり保育の充実の為の取り組みが出来ていたか	<ul style="list-style-type: none"> ・ひだまり担当教諭もにじの時間に保育に入り、担任と子どもの様子を共有して、個々の子どもの様子を把握した上で、午後の保育につなげている。 ・利用人数に応じて、フリーやパート教諭がフォローに入り、子ども達の様子をしっかりと把握できるようにしている。また、利用する子ども達の様子によって、落ち着いて過ごせる環境作りや配慮ができていた。 	A
給食	子どもに対して適切な食育をしているか	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の食材や行事にちなんだ献立を考えて、提供しているので、食事を通して、季節感を感じることができ、食べる楽しさにつながっている。 ・栄養士が食材や献立について伝えたいことがある時は、各クラスに手紙をつけ、紹介していることで、食材や料理へ興味を持つ機会になっている。 ・園内の花壇で野菜を育て、水やり等の世話をすることで成長や収穫の楽しさを味わっている。今年度は、きゅうり・トマトミニトマト・オクラ・メロン・スイカ・小松菜・ほうれん草を植え、きゅうり・トマト・メロン・小松菜・ほうれん草は給食に取り入れて食べる嬉しさも感じる事ができた。 ・食事の配膳、食事時の姿勢、箸やスプーンの持ち方などその都度、指導している。 ・食事が楽しみになるよう、完食できる量にしたり、苦手な食材を減らす配慮や声掛けをし、食べようという気持ちを高めている。 ・感謝礼拝やシエラレオネの話を通して、食に対する感謝の気持ちや残さず食べる気持ちを育てている。 	A
	アレルギー対応は適切に出来ているか	<ul style="list-style-type: none"> ・なかよし給食(乳・小麦・卵を使用しない給食)を提供しているので、不足しがちなカルシウムやたんぱく質を他の食材で補えるよう工夫している。全園児が安全で安心な給食を食べることができている。 ・アレルギー児の食器の色を変え、誤食がないように配慮している。(卵・乳・小麦→黄色の食器/魚→ピンクの食器) ・プレイデーやクリスマスのケーキは、アレルギー児向けに、米粉などの代替食材を使って、キッチンで焼いたものを提供している。 	A

IV. 総合評価

[総合評価]A

・本年度の重点目標は、おおむね達成できたと思われる。

特に、コロナで様々な活動が制限されてきた年長組の経験をいろいろな形で増やしたことで、子ども達の成長につながった部分が多く、充実した1年となった。

・教職員ひとりひとりが、子ども達の心に寄り添い、丁寧に関わる保育を心がけていたので、ナーサリーや幼稚園、ひだまり保育など、それぞれの場所で、子ども達が安心して、心身ともに安定して過ごしていた。

・給食でアレルギー対応をしている子ども達は7名。アレルギー対応する食材も個々で異なるので、毎月、各家庭にアレルギー対応表を配布しており、不安な点はすぐに伝え合うことで連携している。そのため、誤食もなく、安心して食べてもらうことができています。

V. 今後の課題

- 引き続き、子どもの成長にとって大事なことを教職員間で考え、コロナ禍で変えてきた日々の保育や行事を見直し、保育の質を高めていく。
- 参観など、実際に子どもの様子を見てもらう機会を増やしていくことで、園と保護者の思いを共有し、子どもの成長を支えていく。
- 園や担任の思いを伝えたり、保護者と意見交換する機会の持ち方を検討していく。
- 子育て支援の充実を図る
- 働き方改革を各自が意識して、勤務時間内に仕事が終われるよう、効率よく、仕事を進めるよう努める。

VI. 学校関係者評価委員会の意見(現父母委員4名、卒業生保護者1名、近隣の有識者1名)

- 園長先生が全員の子ども達の顔と名前を覚え、毎朝、門のところで出迎えたり、先生達の間で子どもの様子をしっかり共有するなど、子ども達に慈しみをもって接しているので、子ども達も充足感をもって園生活を送る事ができている。
- 食育では、苦手な野菜を上手においしく料理して提供されており、子どもと先生達の信頼関係もできているので、良い食育ができている。
- 園バス置き去り事件のニュース後、すぐに園での対策についてのお知らせがあり、迅速な対応に信頼が深まり、安心して子どもを預けられると感じた。今後も、置き去り防止対策について、定期的にお知らせしてほしい。
- ホームページ内のブログやさふらんキッチンのメニュー紹介が周知されていない部分もあるので、学期毎など定期的にパスワードをお知らせしてほしい。
- 先生達もゆとりをもって保育ができるように、働き方改革を進めてほしいと思う。
- さふらん駐車場に駐車する際、どこまでバックしていいかわからないので、車止め用のブロックを置いてほしい。(現在、設置してあるコンクリートを少し前に出して、わかるようにしました。今後の対応としましては、お借りしている駐車場ですので、地主の方と良く相談して、検討していきます)